

日鉄エンジニアリング(社長・藤原真一氏)の建築・鋼構造事業部は『鋼×想』力』をコンセプトとして掲げながらコストダウンや提案メニューの標準化などを強力に推進。良好な需要環境も追い風となり建築・鋼構造の両事業分野で大きな成果を出し続けている。事業部長の村上信行常務執行役員に事業の現状と戦略を聞いた。(村上 倫)

日鉄エンジニアリング 建築・鋼構造部門の事業戦略

村上 信行常務執行役員に聞く



「している」

——建築事業分野の現状をお聞きたい。

「18年度は大型物流施設を中心に受注計画を達成した。2階建て物流施

品『NSスタンロジ』は非常に高評価で引き合い

築事業の
戦略は。

「強靱化プラン」を

用もあり18年度のシステム建築分野の受注高は95億円となった。また、

推進する。物流施設は引き続き堅調な需要が見込まれ継続顧客案件を中心に

一体型のワンストップエンジニアリングへの取り組みを強化していく」

たい」

—資機材・労務不足の懸念が続いています。

『NSビナス』にAIを適用することで構造設計の高度化も進める」

「システム建築分野」では『NSスタンロジ』の取り組みを強化し、さら

エクトマネジメントシステム『eプロナビ』を全案件で適用することで差

やペーパーレス促進、RPA導入、サテライトオフィスやテレワークの試

——事業の現状についてお聞きたい。

受注高は2017年度
で3年連続で700億
円を超える高水準で、18

年度は設計・施工要員への高負荷も勘案し550億円に抑制する計画だったが、680億円と大幅に超過達成となった。売上高についても大型案件が寄与し、860億円と

建築事業
建設プロセス改革推進
20年以降に
向け先手

捕捉してと受注高70億円の確保をいく。二目指す。需要拡大が見込める。BIMは着実に進める。適用拡大し、18年度は適用率30%となった。19年度もさらなる拡大を図りたい。また、建築の未来に関わることに点を打

施設』は現
 在物施設
 出』で実績
 手法を拡
 催し、次世代人材を育成
 若手意見交換会なども開
 タンビルディング会』の
 建築でも適用できればと
 考えている。システム建
 築分野は標準化が最も進
 無人の自動ブルドーザー

「加えて、物流施設や
れている。この技術をベ
活用にとライしていく」
んでおりデータも蓄積さ
している。この技術をベ
活用にとライしていく」

前年に引き続き06年の分社以降で最高水準を更新した。収益も非常に高いレベルを確保できた」

——19年度の見通しは。

「建築400億円、鋼構250億円の計650億円の事業規模をベースにした体制を敷いているが、2年連続で受注高がこれを大きく上回り歪みが生じている。体制の再整備を図るためにも19年度は600億円、売上計画は620億円に設定

で共に検討・提案を行な
ってきた。こうした取り

一産業建築では「想」の部分にあたる提案メニ

「加えて、物流施設や

んでおりデータも蓄積されている。この技術をベ

「活用」にトライしていく」

